



ひまわりノ畠

教育目標 思索・和敬・剛健
R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう



<http://www.kyose.ed.jp/kyosedaijyuu/gakou/index.htm>

ストレスが、美味しいワインになる。

1月12日（月）は成人の日で、清瀬市では前日の11日（日）に、けやきホールで「清瀬市20歳のつどい」が開かれました。R4年4月の民法改正により、成人の年齢が18歳となり、選挙権（H28年施行）や保護者の同意がなくても様々な契約が出来るなど、社会的な責任を持つようになりました。生徒の皆さんもあと数年で早くも成人となります。しかし成人なっても、飲酒や喫煙など、心身の健康に関係するものは、20歳からで変わりませんので、注意してください。成人をお祝いする式典については、今まで通りにお酒が飲めるようになる20歳でおこなう自治体が多いようです。

そのお酒ですが起源はとても古く、中でもワインは紀元前4000年頃のメソポタミアではすでに作られて、飲まれていたそうです。日本にワインが伝わったのはずいぶんと遅く、16世紀の戦国時代頃に、鉄砲や西洋文化と一緒に、ヨーロッパから入って来たようです。国内でのワイン造りは、明治になってから、ぶどう栽培に適した山梨県で始まったそうです。今でも国内有数の生産地です。



お酒には原料の異なる色々な種類があります。ワインは“ブドウ”から作るお酒です。一日の寒暖差が大きく、夜は凍らないように寒さに耐えながら、石コロだらけの土壌で育ったブドウの木から採れた果実は、醸造すると、糖分と酸味がしっかりしてバランスが良く、エレガントな風味で、色も鮮やかな素晴らしいワインになるそうです。植物にとっては厳しいと思える環境で育ったブドウの木は、丈は低く、実は小さく、付ける実の数も少なく、形も不揃いで、食べてもあまり美味しくありませんが、厳しい環境の中で、ストレスを受けながら育つうち、その果実の中に、根で土の中から懸命に集めたさまざまな養分や、葉で必死になって作った栄養分を蓄えます。水が十分にあると、果実に水分が多くなり、ワイン造りには向かないそうです。そして、栄養分を必死に貯めこんだ果実から醸造されたワインは、さらに何年も寝かされて熟成し、やっと香りも、味も、芳醇な美味しいワインになるとのことです。

現在、3年生は受験の真っただ中です。ストレスもかなりのものだと思います。不安になったり、気持ちがイライラしているかもしれません。推薦入試が終わり、進路が決まった生徒の皆さんも、やはり進路が決まる間のどこかの段階で、同じ心境だったと思います。中学3年生で自分の進路について懸命に取り組んだ経験は、学力だったり、選択する力だったり、決断力だったりと、人生を歩むために欠かせない力になっています。皆さんがこの時期に手に入れたさまざま経験と力は、何年かあるいは何十年か後に、皆さんの人生を豊かで、しっかりしたものにしてくれると思います。



生徒の皆さん、将来どんな成人となり、どんな芳醇な人生の入り口に立てるのか期待しています。20歳になって飲むワインは、どんな味でしょうか？ がんばれ受験生。

さて現代では、このような栽培方法をしなくとも、美味しいワイン用のブドウを育てる栽培技術は進歩していますし、種類によっては温暖な気候の方が良い実をつけ、美味しいワインになるものもあるそうです。果実用の美味しいブドウからも美味しいワインを造っているそうで、厳しい環境で育てる方法が唯一の正解というわけではありません。ましてや必要のないストレスをむやみに与えて育てると枯れてしまいます。それは人も同じです。

■ 「国際理解教育」 2年総合的な学習 1月30日（金）

～「海外体験を聞くことで、将来の可能性の幅を広げよう！」～

1月30日の5・6時間目を使って、2年生は、総合的な学習の時間で、国際理解教育の授業を行いました。国際交流活動などを行っている一般財団法人のヒッポファミリークラブきよせの皆さん23名をお招きして、アクティビティを織り込みながら、海外留学などの海外体験や、国際交流活動を経験された方や、海外からの留学生の方のお話をうかがいました。昔は身近に外国人の方はあまりおらず、国際交流というと、外国にでかけて、自らが行う特別な活動というイメージがありましたが、現在の日本には、海外から来日して生活をしている方が多くなり、日常生活の中で共に活動することが、普通の社会になってきており、国際交流は特別ではない、当たり前の身近なことになってきています。外国の方とも、共に生活できる社会づくりは、どうあるべきかを考えることも、大切になってきています。



■ 「命の教育フォーラム」 1月31日（土）

清瀬市教育委員会では、「命の教育」を教育施策の柱のひとつとしており、毎年3学期に「命の教育フォーラム」を開催し、その中で、5校の生徒会役員による意見交換会を実施しています。今年度は、「みんなが気持ちよく過ごせる学校にするために」というテーマで、各学校での取組の紹介や、これから活動についてのディスカッションを行いました。事前に各中学校とは OL 会議で準備を進め、当日の司会進行は四中の生徒が務めてくれました。本校からは、生徒会長の芦ヶ谷真央さん（2年生）と、役員の阿部楓さん（1年生）が代表として参加し、来年は本校が幹事校の予定です。また今年は、小学校9校の児童会も参加し、3グループに分かれて意見交換をしていました。各グループからでた意見の共通ポイントは、やはり「あいさつ」の大切さでした。笑顔であいさつ、そして感謝を伝える「ありがとう」の言葉ですね。



■生徒の活躍のご紹介 おめでとうございます！

【吹奏楽部】

●第59回 東京都中学生アンサンブルコンテスト

東京都中学校吹奏楽連盟 / 朝日新聞社 会場 府中の森芸術劇場

銀賞

管楽八重奏 演奏曲：オルケゾグラフィ 舞踏曲集

アンサンブルコンサートメンバー：2年生8名

※家庭配布版では、氏名をご紹介しております。



★清瀬市立南部児童館等複合施設「まつぼっくる」OPENセレモニー 2/1(日)

～ 開館セレモニーに、吹奏楽部登場！ 演目：管楽八重奏 オルケゾグラフィ 舞踏曲集 ～



2/1(日)に、中央公園に建設していた清瀬市立南部児童館等複合施設が完成し、そのオープニングセレモニーがありました。南部図書館や児童館、市民センターが入る複合施設で、建築家の隈研吾氏の事務所による設計だそうです。当日は、澁谷市長を始め、小池都知事などの来賓の方々が出席されるセレモニーで、本校の吹奏楽部アンサンブルコンテストメンバーが、施設を利用する清瀬の子どもたちを代表して、開館のお祝いの演奏をしてくれました。

複合施設の開館に合わせて、隣接する国立看護大学の敷地と一体化した公園整備なども進められるそうです。



※演奏の動画を限定公開中、右のQRコードよりご覧いただけます。公開期間～2/28